

令和5年度 自己評価計画書

石川県立錦城特別支援学校

重点目標	具体的取組	担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判断基準	判定基準	備考
(1) 授業改善と 専門性の向 上	① <授業改善> 「特別支援学校における教 科指導の充実事業」の継続を 踏まえ、職員全員で学校研究 を推進し、授業改善を行う。	研究推 進課 全学部	授業構想シートやアイデアシート 等の活用により、主体的・対話的で 深い学びの視点で授業の工夫改善を 行った。教科の見方・考え方を働か せた深い学びのための手立てや支援 等に課題がある。	【努力指標】 研究授業の指導案作成 や模擬授業等に積極的に 関わり、教科の見方・考 え方への理解を深め、授 業改善している。	研究授業実施に向けた一連の プロセスをとおして、教科の見 方・考え方への理解が深まり、 授業の工夫改善に取組んだ職員 の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート
	② <専門性の向上> 児童生徒の特性や能力に応 じ、確かな学びに繋がる授業 を展開する。「社会に開かれ た教育課程」を目指し主な教 育内容や目標等を明示する。	教務課	授業参観等では、授業の目標や内 容、年間指導計画等を教室に掲示し アンケートを実施した。学習指導要 領に基づいた学校全体の教育課程上 の履修内容は明示していない。	【満足度指標】 保護者や関係機関の方 々が、本校の教育課程を 理解し、授業内容に満足 している。	授業参観、学校公開等で授業 内容に満足している保護者や関 係機関職員の割合	A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	参観者ア ンケート
	③ <ICTの活用> 児童生徒の障害特性を踏ま えたICTの活用を工夫し、 深い学びに繋がる授業を実践 する。	情報支 援課 全学部	児童生徒1人1台タブレット端末が 授業で活用され、児童生徒が主体的 に取組む様子が見られる。個別又は 集団学習の授業において効果的に活 用する必要がある。	【努力指標】 1人1台タブレット端末 を個別または集団学習で 工夫し、効果的な活用に 取り組んでいる。	1人1台タブレット端末を個別 または集団学習で、効果的な活 用を目指した職員の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート
(2) キャリア教 育の推進	① <プログラムの活用> 錦城版キャリア教育プロ グラム（改訂版）を活用し、キ ャリア教育の教育実践を発信 し、家庭との連携を図る。	進路支 援課 キャリア 教育委員 各担任	自立と社会参加・貢献等を意識し キャリア発達を促すために、学校で の取組内容や教育実践を教員が適切 に説明し、家庭と連携し共に取組み を継続する必要がある。	【努力指標】 保護者が学校でのキ ャリア教育の取組内容や実 践を理解し、家庭等でも 意識して取り組んでいる。	キャリア教育プログラムに基 づいた具体的な教育実践を理解 し、家庭等でも取り組んでいる保 護者の割合	A：75%以上 B：65%以上 C：55%以上 D：55%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 保護者ア ンケート
	② <進路支援の充実> 保護者も交えた進路研修会 等を継続し、キャリア教育や 進路支援の充実を図る。	進路支 援課	保護者に進路に関する研修会等 を実施したことで卒業後の生活や進路 についての意識が高まった。職員の 授業実践やキャリアパスポートの活 用はまだ十分ではない。	【満足度指標】 保護者及び職員がキ ャリア教育や進路に関する 研修会に満足している。	キャリア教育や進路に関する 研修会等の内容に満足している 保護者・職員の割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 保護者・ 職員アン ケート
	③ <社会で生きる力の育成> 学校間交流や居住地校交流 合同学習、地域交流等をと おして、人間関係形成・社会形 成能力の育成を目指す。	各部 各担任	コロナ禍で多くの交流及び共同学 習がオンラインとなった。同年代の 関りや地域と繋がる機会を増やし、 互いに関り伝え合い共生社会の一員 として学び合うことが必要である。	【成果指標】 児童生徒一人一人が人 と関わる力やコミュニケ ーションにおいて向上が 見られる。	児童生徒一人一人が、自ら活 動に参加したり交流相手と関わ ろうとしたりする姿が見られた 割合	A：70%以上 B：60%以上 C：50%以上 D：50%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート
(3) 安心・安全 な学校づく り	① <健康・安全・防災に関する 教育活動の充実> 健康・安全・防災に関する 指導を授業や行事等において 実践する。	指導課 保健課 各部	健康・安全・防災に関する指導は 授業や防災教育等で実施しているが 児童生徒自身が健康や安全に留意し て考えて行動できるよう指導の充実 が必要である。	【努力指標】 授業や行事等で健康・ 安全・防災に関する指導 を積極的に行っている。	学校保健計画や学校安全計画 の月別目標を基にした指導や話 を各部で行った回数割合	A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート
(4) 業務の効率 化の工夫	① <業務の平準化と環境改善> 分掌業務のデジタル化を更 に推進し、特定の時期や教員 に集中しがちな業務を分担し 協働的に働ける組織作りを目 指す。	教頭 各課 全学部	職員会議だけでなく課会等でもペ ーパーレス化が進んだ。特定の時期 や教員に時間外勤務が集中するため 業務の平準化に努め、業務の進捗状 況を確認しながら、協力し合っ て行う必要がある。	【成果指標】 各部、各課においてデ ジタル化を推進し、個々 の業務を見直し、協働的 に業務を行っている。	各部・各課（計12部署）にお いて業務のデジタル化や業務の 偏りの平準化に努め、協働的に 業務を行うことで効率よく業務 を行えた部・課の割合	A：10/12以上 B：8/12以上 C：6/12以上 D：4/12以下	B以上 C・Dは 工夫改善	9月・1月 職員アン ケート

